小特集

IPTVの現在と展望

Current Status and Future Perspectives of IPTV

CONTENTS:

1. IPTV サービスの経緯とスタートライン
2. IPTV サービスの国際標準化動向とサービス実現へ向けた技術
3. 日本における IPTV 普及に向けた課題と今後の可能性

編集にあたって

Foreword

山田一郎　（独）情報通信研究機構

IPTV（Internet Protocol TeleVision）とは，一般的には，帯域が確保された閉域網のブロードバンドIPネットワークを利用してテレビ番組や映画などのコンテンツを配信するサービスのことを指す．IPTVは，YouTubeなどの帯域が確保されていないオープン網における映像配信サービスとは別扱いされ，VOD（Video On Demand）サービスや，難視聴地域における地上デジタル放送のIP再送信，さらにはモバイルIPTVなど，さまざまなサービスが期待されている．

世界中で2002年から2004年に開始されたIPTVサービスは，多様なコンテンツをそろえることで契約者を獲得し，好調な企業では数十万規模に加入者を増やしてきている．当時，IPTVサービスを提供していた業者は独自の方式を用いていたが，2005年ごろより，IPTVの仕様を共通化し，普及・促進を目指す国際標準化が開始された．

一方，国内でもIPTVサービスは実施されているが，地上波テレビの配信サービスが進まないこともあり契約者数は低調となっている．国内における普及促進のため，2006年に，放送事業者や通信業者，家電メーカなどが集まり，任意団体のIPTVフォーラムが形成された．さらに2008年6月には，これらを引き継ぐ「有限責任中間法人IPTVフォーラム」が設立され，本格的に技術仕様の標準化とその普及，高度化に取り組んでいる．このような活動の今後の動向が注視されている．

また，2008年12月から，NHKではNHKオンデマンドというIPTVサービスを開始する．NHKオンデマンドでは，「大河ドラマ」「朝の連続テレビ小説」など毎日10～15番組と，ニュース5番組を放送後1週間程度配信する「見逃し番組」と，過去に放送したドラマ番組や「映像の世紀」「NHKスペシャル」といった大型ドキュメンタリー番組など，NHKの映像資産を配信する「特選ライブラリ」をサービス予定としている．著作権処理や映像のデジタイズ処理，配信のためのインフラ整備など多くの課題に対処し，日本の放送事業者による初めての本格的なサービス開始となる．このサービスが視聴者に受け入れられるか，利便性の高いサービスが可能か，収益を上げることができるか，といった視点で，今後の日本におけるIPTV事業全体を占う上でも注目されている．

本小特集では，1章において中村秀治氏により，IPTVの定義を明確にし，ADSLテレビとして主に欧州の閉域IP網で普及が始まったIPTVサービスのこれまでの経緯を概観している．また，日本におけるIPTV，さらには，インターネット上での動画サービスとの比較をしながら，現時点での方向性も整理，紹介している．

2章では，里田浩三氏らにより，ITU-Tなどの国際標準化で議論されているIPTVサービスと，IPTVサービスを実現する技術を解説するとともに，今後期待されるIPTVサービスについて紹介している．

最後に3章で，村上真一氏により，現在のIPTVサービスの実態と，普及のための課題，新たなビジネスモデルと新技術による可能性について解説している．日本でIPTVの普及が遅れている理由が整理され，今後，IPTV事業を成功させるために解決しなければならない問題点を指摘している．

本小特集によって，これまで日本ではそれほど普及していないIPTVについて読者の理解を深め，今後，劇的に変化するであろうIPTVサービスの予兆を感じとっていただければ幸いである．

（平成20年9月24日）